

令和元年度小・中学校各教科等担当指導主事連絡協議会 報告書

教科・領域	体育・保健体育		愛知県教育委員会																																
月日・曜	小：6月26日（水） 中：6月27日（木）	会場名	国立オリンピック記念青少年総合センター																																
スポーツ庁政策課 教科調査官 横嶋 剛 塩見 英樹 関 伸夫																																			
1 体育・保健体育科の第2編「内容のまとめごとの評価規準」作成手順について 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）（案）において、学習指導要領の規定から「内容のまとめごとの評価規準」を作成する際の手順が示された。																																			
(1) 評価規準の全体像について <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="text-align: center; background-color: #cccccc;">学習指導要領</th> <th style="text-align: center; background-color: #cccccc;">作成手順</th> <th colspan="2" style="text-align: center; background-color: #cccccc;">観点の趣旨、評価規準</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第1 体育・保健体育科の目標 第2 各学年（分野）の目標及び内容 <小学校 体育> 第1学年及び第2学年 第3学年及び第4学年 第5学年及び第6学年 <中学校 保健体育> 体育分野 第1学年及び第2学年 第3学年 保健分野 </td><td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> </td><td colspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 評価の観点及びその趣旨 学年・分野別の評価の観点の趣旨 ※ 「観点の趣旨」…………目標の規定を踏まえ、観点別学習状況の評価の対象となるものを整理したもの </td></tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 内容のまとめ (第2編-2参照) </td><td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> </td><td colspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 評価の観点及びその趣旨は、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）別紙4に記載 </td></tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 内容のまとめ (第2編-2参照) </td><td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> </td><td colspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 内容のまとめごとの評価規準 (内容 + 文末表記) </td></tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> (1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等 </td><td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> </td><td colspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 知識「知って（理解して）いる」 技能「身に付けている」 思考・判断・表現 「～している」 「～しようとしている」 「～している」※ 健康・安全 知識・技能 主体的に学習に取り組む態度 </td></tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 単元の目標 本時の目標 </td><td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> </td><td colspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 単元の評価規準 学習活動に即した評価規準 </td></tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 事例（案） ※第3編で示される予定 </td></tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <小学校> 第2学年 マット遊び：評価の全体像 第3学年 タグラグビー：思考・判断・表現 第4学年 走り高跳び：知識・技能 第5学年 表現：主体的に学習に取り組む態度 体ほぐしの運動：複数の単元等について </td><td colspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <中学校> 球技：単元の評価規準の設定・総括 体つくり運動：複数の単元をまたがった観点別学習状況評価 武道、ダンス、器械運動：三観点のB規準 </td></tr> </table>				学習指導要領	作成手順	観点の趣旨、評価規準		第1 体育・保健体育科の目標 第2 各学年（分野）の目標及び内容 <小学校 体育> 第1学年及び第2学年 第3学年及び第4学年 第5学年及び第6学年 <中学校 保健体育> 体育分野 第1学年及び第2学年 第3学年 保健分野		評価の観点及びその趣旨 学年・分野別の評価の観点の趣旨 ※ 「観点の趣旨」…………目標の規定を踏まえ、観点別学習状況の評価の対象となるものを整理したもの		内容のまとめ (第2編-2参照)		評価の観点及びその趣旨は、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）別紙4に記載		内容のまとめ (第2編-2参照)		内容のまとめごとの評価規準 (内容 + 文末表記)		(1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等		知識「知って（理解して）いる」 技能「身に付けている」 思考・判断・表現 「～している」 「～しようとしている」 「～している」※ 健康・安全 知識・技能 主体的に学習に取り組む態度		単元の目標 本時の目標		単元の評価規準 学習活動に即した評価規準		事例（案） ※第3編で示される予定				<小学校> 第2学年 マット遊び：評価の全体像 第3学年 タグラグビー：思考・判断・表現 第4学年 走り高跳び：知識・技能 第5学年 表現：主体的に学習に取り組む態度 体ほぐしの運動：複数の単元等について	<中学校> 球技：単元の評価規準の設定・総括 体つくり運動：複数の単元をまたがった観点別学習状況評価 武道、ダンス、器械運動：三観点のB規準		
学習指導要領	作成手順	観点の趣旨、評価規準																																	
第1 体育・保健体育科の目標 第2 各学年（分野）の目標及び内容 <小学校 体育> 第1学年及び第2学年 第3学年及び第4学年 第5学年及び第6学年 <中学校 保健体育> 体育分野 第1学年及び第2学年 第3学年 保健分野		評価の観点及びその趣旨 学年・分野別の評価の観点の趣旨 ※ 「観点の趣旨」…………目標の規定を踏まえ、観点別学習状況の評価の対象となるものを整理したもの																																	
内容のまとめ (第2編-2参照)		評価の観点及びその趣旨は、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）別紙4に記載																																	
内容のまとめ (第2編-2参照)		内容のまとめごとの評価規準 (内容 + 文末表記)																																	
(1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等		知識「知って（理解して）いる」 技能「身に付けている」 思考・判断・表現 「～している」 「～しようとしている」 「～している」※ 健康・安全 知識・技能 主体的に学習に取り組む態度																																	
単元の目標 本時の目標		単元の評価規準 学習活動に即した評価規準																																	
事例（案） ※第3編で示される予定																																			
<小学校> 第2学年 マット遊び：評価の全体像 第3学年 タグラグビー：思考・判断・表現 第4学年 走り高跳び：知識・技能 第5学年 表現：主体的に学習に取り組む態度 体ほぐしの運動：複数の単元等について	<中学校> 球技：単元の評価規準の設定・総括 体つくり運動：複数の単元をまたがった観点別学習状況評価 武道、ダンス、器械運動：三観点のB規準																																		
(2) 体育・保健体育科の内容のまとめについて（第2編-2参照） <小学校> 各学年AからFまでの運動領域と、第3学年から第6学年はGの保健領域で示されている。 <中学校> 各学年AからHまでの体育分野と、(1)から(4)までの保健分野で示されている。なお、保健分野(1)について、内容が3学年にまたがっているため、内容のまとめが単元とはならない。																																			
2 「内容のまとめごとの評価規準」作成の基本的な手順																																			
(1) 運動領域・体育分野の「内容のまとめごとの評価規準」作成手順 (小学校 第1学年及び第2学年 B器械・器具を使っての運動遊び、中学校 第1学年及び第2学年 E球技の例)																																			

<p>B 器械・器具を使っての運動遊び (小学校学習指導要領)</p> <p>器械・器具を使っての運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。</p> <p>ア 固定施設を使った運動遊びでは、<u>登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをすること。</u></p> <p>イ マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすること。</p> <p>ウ 鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすること。</p> <p>エ 跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをすること。</p> <p>(2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。</p> <p>(3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>(下線) 「知識及び技能」に関する内容</p> <p>(波線) 「思考力、判断力、表現力等」に関する内容</p> <p>(二重線) 「学びに向かう力、人間性等」に関する内容</p> </div>	<p>E 球技 (中学校学習指導要領)</p> <p>球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。</p> <p>ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。</p> <p>イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。</p> <p>ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること。</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどや、健康・安全に気を配ること。</p>												
<p>内容のまとめごとの評価規準 例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">知識・技能</th> <th style="text-align: center;">思考・判断・表現力</th> <th style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 10px;"> 次の運動遊びの行い方を知っているとともにその動きを身に付けています。 ・固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをしている。 ・マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をしている。 ・鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をしている。 ・跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをしている。 </td> <td style="padding: 10px;"> 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。 </td> <td style="padding: 10px;"> 運動遊びに進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けていている。 </td> </tr> </tbody> </table>	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度	次の運動遊びの行い方を知っているとともにその動きを身に付けています。 ・固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをしている。 ・マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をしている。 ・鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をしている。 ・跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをしている。	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	運動遊びに進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けていている。	<p>内容のまとめごとの評価規準 例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">知識・技能</th> <th style="text-align: center;">思考・判断・表現力</th> <th style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 10px;"> 【知識】 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 【技能】 ・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防ができる。 ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。 ・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防ができる。 </td> <td style="padding: 10px;"> 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 </td> <td style="padding: 10px;"> 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどをしたり、健康・安全に気を配っている。 </td> </tr> </tbody> </table>	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度	【知識】 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 【技能】 ・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防ができる。 ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。 ・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防ができる。	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどをしたり、健康・安全に気を配っている。
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度											
次の運動遊びの行い方を知っているとともにその動きを身に付けています。 ・固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをしている。 ・マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をしている。 ・鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をしている。 ・跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをしている。	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	運動遊びに進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けていている。											
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度											
【知識】 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 【技能】 ・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防ができる。 ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。 ・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防ができる。	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどをしたり、健康・安全に気を配っている。											
<p>(2) 運動領域・体育分野の「内容のまとめごとの評価規準」作成のポイント ※（ ）内中学校</p> <p>① 「知識・技能」のポイント</p> <p>「知識」については、学習指導要領の内容の（1）「知る（理解する）」と示されている部分が該当し評価規準は、「～の行い方を知っている（理解している）」として作成する。</p> <p>「技能」については、「その動きを身に付ける」と示されている部分が該当し、評価規準は「～の動きを身に付けている（～できる）」として作成する。</p>													

② 「思考・判断・表現」のポイント

「思考・判断」については、学習指導要領の内容の（2）「～工夫する」の部分が該当し、評価規準は「工夫している」として作成する。

「表現」については、「考えたことを友達に伝えること（自己や仲間の考えたことを他者に伝えること）」と示されている部分が該当し、評価規準は「考えたことを友達に伝えている（自己や仲間の考えたことを他者に伝えている）」として作成する。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領の内容の（3）のすべてが該当し、評価規準は、「運動遊びに進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けている（球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとしてすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとしてすること、仲間の学習を援助しようとしてすることなどをしたり健康・安全に気を配っている」と作成する。

運動領域・体育分野における健康・安全に関する内容については、実践的な行動が求められることから、「～している」と表記する。

（3）保健領域・保健分野の「内容のまとめごとの評価規準」作成手順

（小学校 第5学年 G（2）けがの防止、中学校 第2学年（3）傷害の防止の例）

G（2）けがの防止（小学校学習指導要領）	（3）傷害の防止（中学校学習指導要領）
<p>（2）けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア けがの防止に関する次の事項を理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。</p> <p>（ア）交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。</p> <p>（イ）けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。</p> <p>イ けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。</p> <p><u>（下線）</u> ……「知識及び技能」に関する内容 <u>（波線）</u> ……「思考力、判断力、表現力等」に関する内容</p>	<p>（3）傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。</p> <p>（ア）交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。</p> <p>（イ）交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。</p> <p>（ウ）自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。</p> <p>（エ）応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができる。また、心肺蘇生法などを行うこと。</p> <p>イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。</p>

内容のまとめごとの評価規準 例		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>けがの防止について理解しているとともに、けがなどの簡単な手当についての技能を身に付けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを理解している。 けがなどの簡単な手当について、速やかに行う必要があることを理解しているとともに技能を身に付けている。 	<p>けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</p>	<p>健康や安全の大切さに気付き、けがの防止についての学習に、進んで取り組もうとしている。</p>

内容のまとめごとの評価規準 例		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>傷害の防止について理解しているとともに、応急手当について技能を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。 交通事故などによる傷害の多くは安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解している。 応急手当を適切に行うことによって傷害の悪化を防止することができる。また、心肺蘇生法などの技能を身に付けている。 	<p>傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現している。</p>	<p>傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

(4) 保健領域・保健分野の「内容のまとまりごとの評価規準」作成のポイント ※ () 内中学校

① 「知識・技能」のポイント

「知識」については、学習指導要領の内容のア「理解する（理解を深める）」と示されている部分が該当し評価規準は、「理解している」として作成する。

「技能」については、「けがなどの簡単な手当てをすること（応急手当をすること）」と示されている部分が該当し、評価規準は「～についての技能を身に付けている」として作成する。

※ 「技能」については、＜小学校＞G（1）心の健康、G（2）けがの防止、＜中学校＞（2）心身の機能の発達と心の健康、（3）傷害の防止が該当

② 「思考・判断・表現」のポイント

「思考・判断」については、学習指導要領の内容の（2）「～の方法を考え」と示されている部分が該当し、評価規準は、「～を考えている」として作成する。

「表現」については、「それらを表現すること」と示されている部分が該当し、評価規準は「～について考えたことを表現している」として作成する。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

保健領域では、学習指導要領に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないことから、各学年の目標を参考にする。同様に、保健分野においても、保健分野の目標を参考にする。評価規準は、「～についての学習に進んで取り組もうとしている（主体的に取り組もうとしている）」として作成する。

3 評価についての留意点及び検討中の事項

(1) 知識・技能の見取り方について

「知識の見取り」が運動の楽しさを損なうものであってはならないという観点から、とりわけ低学年について体育における知識について、学習している動きが身に付いている様子も知識として身に付いている姿（暗黙知）として捉えることができるとする方向での検討がされている。

※ 第3編に盛り込まれる内容

特に低学年の知識については、事実的な知識の獲得のみに主眼が置かれるのではなく、まずは運動の楽しさや体を動かす心地よさを味わうことが重要であるため、直感や経験に基づく知恵等、動きの獲得を通して具体的な行い方を身に付けることも重要である。言葉や文章等、明確な形で表出する部分のみでの知識の見取りにならないよう留意する。

(2) 学びに向かう力、人間性等について

運動領域・体育分野においては、「学びに向かう力、人間性等」についての目標と内容が各学年の目標及び内容の（3）により示されている。そのため、内容に示されたものを基に作成された「内容のまとまりごとの評価規準」には、「感性、思いやりなど」が含まれている。

(3) 保健の技能について

習得した知識に基づき、行動として表出している姿について評価する。※ 技能の部分のみ取り出して評価するものではない。

ただし、評価の工夫として、実際に知識や技能を用いる場面（文章や発言などにより発表させる機会を設定する等）を設けたり、実習・観察等を行ったりして、理解したことができているか見取る必要がある。

(4) 保健領域、保健分野における表現について

指導と評価の一体化の視点から、プレゼンテーションの善し悪しのみを評価の対象とすることがないよう「思考・判断」の部分が抜け落ちないように留意する。また、表現について、論述やレポートの作成、発表、グループでの話合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるなど「思考・判断」したことを見取る必要がある。

4 評価についての課題

(1) 運動領域・体育分野における知識・技能の評価

① 小学校低学年における、知識の見取り方について

② 知識・技能の総括の方法について

(2) 単元、学期末・学年末における観点別学習状況の観点にごとの総括